

平成 28 年 12 月 7 日開催

講義名：政策効果の把握に必要な統計データの適正かつ有効な利用について（演習）

講師：鳥取大学地域学部教授 小野 達也

講義時間：13 時 00 分～14 時 30 分

1. 目標達成度の把握

- ・政府の目標管理型政策評価や行政事業レビュー、自治体の総合計画の進行管理や事務事業評価、地方創生総合戦略の K P I など、目標値を設定して達成度を評価することが広く行われている。
- ・このシンプルでかつ強力な手続の成否は、統計データの取扱い次第である。道具立てがシンプルだけに、基本的な道具を如何にきっちりと使うかがポイントとなる。

○事例 1. A 市基本構想の数値目標と達成状況

A 市の総合計画の政策レベルで数値目標が 7 つある。評価指標が並んでいて、この計画は平成 18 年度からの計画を 17 年度に策定するため、計画を作る時点の最新時点の数値はこの 16 年度で、それが基準値となる。基本構想は 10 年間であり、27 年度の目標値が設定されている。5 年経った時点で 5 年間の基本計画を作り直すことにしており、22 年度からの計画の策定の段階で一番新しい達成状況の 21 年度の数値がここに挙げられている。したがって、16 年度時点で 27 年度の目標値を立てて、次の計画を立てる際の総括として、21 年度の実績の数値があることになる。ここでは指標自体は良いものとして考えた上で、表には 2 つの課題・問題点があるといえるが、それは何か。

①演習 1 フロー指標とストック指標は区別する必要がある。

総合計画の進行管理や事務事業評価、地方創生の K P I 等の指標の進捗状況の説明や報告など様々な場面で評価指標の実績を一覧表にしたり、カテゴリズして集計し進捗度合いを分析したりすることが多いが、フロー指標とストック指標を分類していないことがしばしばある。しかし、フロー指標とストック指標を区別せずに扱うことは危険であることに注意してもらいたい。この 2 種類の指標は、数字が変化する意味が違う。もし両者を直接比べたければ、ストック指標の差分を求めてフロー指標化する等の工夫が必要である。また、中にはどちらともいえない指標も存在するが、行政の場合は、同じ量の注力で毎年同じ数字になるようなものをフロー的指標、取り組めば取り組むほど毎年数字が積み上がっていくものをストック的指標と整理できる。

②演習 2 2 番目に取り上げるのは、目標達成度（目標の達成度合い）の計算である。

達成状況を数値化することは明確な議論を可能にするが、ここで注目してほしいのは、まず基本的な計算方法には水準達成度と変化達成度という 2 つがあるということ。前者の水準達成度は一番シンプルな割り算で、目標値に対して実績値がどのくらいになったのかの比率。後者の変化達成度は、何の何に対する達成度を測るかということ、基準時点の数字（基準値）から目標値まで変化させるという目標に対してどこまでできたのかを測る。どちらが正しくて、どちらがいいというわけではなく、違う役割を持っている。

③演習 3 目標達成度の 3 つの概念

水準達成度は最後の時点の達成状況だけを考え、変化達成度は出発時点の数字を合わせて使って変化の達成状況を測る。更に中間時点での数字が意味をもつ場合には、

基準年度（事業や計画の開始年度）から目標年度までの実績すべてに関して計算する累計達成度という測り方、概念もある。3つそれぞれ違う意味を持っているが、どれか1つが重要な意味を持つ場合もあれば、3つとも併せて見た方がいいケースもある。（参考）目標達成度を比較する基本的な方法

フロー指標とストック指標が混ざっている時に、まずストック指標をフロー指標に変換する。変換した上で3通りの計算式を選ぶなり、組み合わせをしてほしい。

④演習4 円グラフの意味

比べられるものを比べるのが大原則である。円グラフを描くために数えているということは比べているということ。つまり、フロー指標とストック指標のように比べられないものを比べてはいけないということである。

○目標達成度の把握において吟味すべき事項

業績指標の何割が目標達成度何%以上である、という目標達成状況の総括は、例えば水準達成度と変化達成度の取扱い次第で、その信憑性は大きく変わる。

目標達成度の把握において吟味すべき事項のうち、今日お話したのは③指標値の比較の妥当性—とくにフローとストックは「混ぜるなキケン」、④達成度計算の妥当性—達成度の計算式3通りの使い分け、⑤達成度の評定と集計の妥当性—いわば比べられるものを比べるという重要な3条件である。しかし、目標達成度を把握してPDCAサイクルを回すためには、それらの前に①指標自体の妥当性（と信頼性）という観点から設定すべき指標が設定できているかどうか、②目標値の妥当性—目標値の明確さ、性格、設定根拠など設定すべき目標値を設定できているかという重要な事項があることを付け加えておきたい。

2. 正味の政策効果（インパクト）の把握

○事例2. 米国コネチカット州の条例

米コネチカット州では1955年に交通事故による死者が増加し、その対策としてスピード違反の取り締まりを厳しくした。その効果として1955年から1956年にかけての交通事故による死者数の推移を挙げ、取り締まりの成果があったと当時のリビコフ知事は主張した。この主張は根拠が十分だろうか。

○正味（ネット）の効果（インパクト）とは

- ・当該プログラムが行われなかった場合と比べてどのぐらいの効果が得られたのか。
- ・当該プログラムだけがもたらした効果はどれだけか（推計値）
- ・アウトカム指標の変化は次の3つに分解できる—正味の効果、外部の効果、誤差・偶然。

⑤演習5 リビコフ知事の主張で足りないもの

大別して2つある。1つ目は時系列の比較。2つ目として、条例の有無の差、条例がある状態とない状態でどのような違いがあるのかという比較の観点が必要。

<最後に>

「嘘には3種類ある。普通の嘘と、真っ赤な嘘と、統計だ。」という言葉がある。統計とはそのように信頼できないものだという、いわれなき悪評であるが、「数字はウソをいわない。しかしウソつきは数字を使う。」という言葉もある。実は数字が嘘をつく訳ではなく、人間が数字を使って嘘をつくということである。数字の扱いに是非気をつけてもらいたい。数字には制約があるが、数字を雑に扱ってしまう問題、例えばフロー指標とストック指標を一緒に比べてしまうようなことは避けなければいけない。数字に制約があることと数字の使い方が不十分であることは全く別の問題である。